

行事のご案内

- 11月5日(日) 正午 別院総会
- 11月12日(日) 午後1時 永代経祥月法要
- 11月19日(日) 午前10時 総永代経法要
- 12月3日(日) 午前10時 別院大掃除
- 12月10日(日) 午前10時 成道会
- 12月10日(日) 午後1時 永代経祥月法要
- 12月17日(日) 午前10時 お歳暮大会
- 12月24・25日 別院閉館日
- 12月31日(日) 午後6時 除夜会

BWA Holiday Craft Faire and Gift Sale

お歳暮の贈り物は決まりましたか？西別院婦人会では、自家製クラフトアイテムの販売を行います!!是非、日曜礼拝の後は会館にお立ち下さい!

日付: 11月12日(日曜日)
場所: 西別院会館



LAHHBT 2023 LAHAINA Silent Auction

期間: 10/15 at 9 AM to 11/5 till 9 PM

Webサイト: <https://www.32auctions.com/LAHHBT4Lahaina>

西別院は全焼したラハイナ本願寺(以下、LHM)の復興支援のため、緊急サイレントオークションを主宰します。LHMは飛騨専精開教使が駐在した場所で、2006年のハワイ世界仏婦では別院婦人会を招待して下さりました。皆様のご参加をお待ちしております。

発行所
本派本願寺羅府別院
815 E. First Street
Los Angeles, CA
90012
Tel: (213)680-9130
Fax: (213)680-2210
E-mail:
info@NishiHongwanji-la.org
Website:
www.NishiHongwanji-la.org

永代経法要と院号



輪番
ウィリアム ブリオネス

本派本願寺羅府別院 輪番法話

十一月になりましたとこ北米では、お西の多くのお寺で永代経法要がお勤めされます。永代経は永代読経を縮めたもので、亡き人に代わり永代に渡って読経、つまりみ教えを伝えていくことを意味しています。

最近になってこの永代経法要についてよく分からないというお声をご門徒の方から聞くようになりました。特に誰のためにこの法要をお勤めするのか、という疑問であります。別院では永代経法要に併せて、永代経基金が設立されています。多くのBCAの寺院でも同様の基金が設立されています。この基金は仏法聴聞の場である寺院を永きに渡って維持していくために必要な経済的安定を願ったものでした。

この基金はご遺族からの御懇志によって始まり維持されています。ご遺族が永代経基金へのご寄付を希望された場合、亡くなった方のお名前が内陣に備えられております永代経本に記されます。この本はカレンダーのようなもので、ページが日ごとに分かれており、亡くなったお日にちにその方のお名前、法名、院号が記載されます。毎朝九時に勤められる晨朝ではその日のページが開かれます。記載されている方の中にはご家族がすでにいらっしゃらない方もおられます。ご遺族の有無に関わらず、この別院がある限りこのお勤めは毎日続けられます。

また別院ではご遺族に永代経法要へのご参詣を勧めしております。二〇一六年三月からは毎月第二日曜日の午後一時より月毎の永代経法要がお勤めされるようになりました。ご遺族には一ヶ月前にお知らせが届くようにさせていただきます。また寺報にもお名前の一覧を掲載しております。お名前を公にすることで、ご遺族はもとより、ご親戚やご友人にもお参りいただけるようになりました。新型コロナウィルスが流行していた間は、直接お寺にお参りしていただくことができませんでしたが、その代わりとしてZoomによる法要が始まりました。これによってご自宅から永代経法要にお参りしていただけるようになりました。現在別院は平常に戻りつつあります。別院での対面による法要参加も再開されております。またオンラインでの参拝も継続しております。(四面へ)

永代経基金の用途については制限がありません。まず原則として元本には手をつけず支出は利息の範囲で行うこと。緊急の事態によって元本を使用し

(一面続き)亡き人をご縁として一人でも多くの方に仏法に出会っていただきたいと心から願っております。

永代経基金について、もう一つ多く寄せられる質問があります。それが院号との関係であります。院号とは日本では元来貴族階級の人々に死後与えられる尊号でした。江戸時代には、僧侶や寺院に貢献した門信徒に送られる院号となりました。西本願寺では本山の院号を授与できることになっており、寺院護持に尽力された方になられます。一方(2)にはこの院号授与に關して独自の規定があります。故人への院号授与は、その人が所属していた寺院の駐在開教使と理事会によって推薦され、その要望が総長に送られます。総長は本山にその要望を伝え、本山から院号が送られます。

別院もこの規定に則り院号の授与をおこなってきました。けれども、一九二九年に始まった大恐慌時代、別院もその影響を受け未曾有の財政的苦境に立たされました。別院は本山に支援をお願いしましたが、当時は日本も非常に厳しい状況でした。そこで本山は直接的な金銭援助の代わりとして、当寺院が一九三一年に別院に昇格したのを機に、輪番に院号を授与することを認め、永代経基金に御懇志いただいた方への院号授与が始まりました。現在でも、本山以外で院号を直接授与しているのはこの別院のみです。こうした背景とご門徒の支えにより永代経基金が設立され、別院の強固な財政基盤となっているのです。

別院では毎月の永代教法要に加え、年に一度合同の永代経法要も例年通りお勤めされています。永代経法要を通じて、先を生きられた多くの方の

ご恩を受けて今こうして生かされていることに私たちは改めて気付かされます。仏法が後の世の人々にまで伝わりますように、という真摯な願いのおかげで、私たちはこうして集い仏法聴聞ができるのです。そのことに深く感謝し、いよいよ聞法に身を据えていくところ、一「永代経経」の真の意味ではないでしょうか。

永代経法要は亡き人から深いご恩を受けた私たちがそのご恩に報いていくご縁であります。そしてその報恩とは「亡き人のために」お経を勤めることではなく、自らの身を通して、仏法として先達の願いを次の世代に伝えていくことだと思っております。

永代経基金の願いに賛同しご支援いただける場合は事務所にぜひご連絡ください。このお寺が永きにわたって聞法道場として教えを伝えることができますよう、皆さまのご理解とご支援をどうかお願い申し上げます。

今年の合同の永代経法要は十一月十九日(日)午前十時よりお勤めいたします。法要では宮地崇開教使による日英両語のご法話を聴聞します。皆さまのご参詣を心よりお待ちしております。

南部教区 Jr. YBL 会議 (9/2-3)



西 Jr. はガ一テ十 Jr. YBAと合同で今年の会議を企画運営し、Religious Awardも受賞しました! Good job!!

羅府別院理事長より



理事長 田端 パメラ

2023年も暮れに差し掛かりました。別院理事長としての役目の一つに、お寺の葬儀に参列することがあります。

私の家系は代々当地に根差して生活をしているため、ご近所の方々とは多くの縁を頂いてきました。葬儀に参列するということは、今日の社会を築き上げられた方に対する敬意と感謝を示すことと、諸行無常のはかなさと美しさが身に染みるご縁と頂いています。別院を代表して葬儀に参列できることはとても光栄で、身が引き締まる思いです。誰にでもストーリーがあり、見送られる方の生前の経歴はいつも耳を傾けて聞かせて頂いています。葬式は亡くなった人の為ではなく、生きていく人にとって大切なものです。言わずもがな、葬儀は悲しいものです。親しみある人と別れることが悲しくない人はいないでしょう。そんな雰囲気も葬儀後のお斎の席につけば、久しぶりに会う家族や友人たちと思ひ出に話に花を咲かせるわけですから、ここに別れの後も続く出会いに感謝する葬儀ということの醍醐味があるのではないのでしょうか。

平素より皆様からは格別のご高配を賜りまして、厚く御礼申し上げます。困難な時にある今、皆様のサポートは大きな力になります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。合掌

ガールスカウト日本訪問!

ガールスカウト第12135回は、6月中旬に日本に行きました。東京から北海道を巡った道中では、京都ガールスカウト第37回やフレスノのガールスカウトと交流しました。ガールスカウトでは遠征後に旅を振り返って、前向きな「バラ」、そうではない「とげ」、ハツとしたことこの「芽」を分かち合う伝統があります。以下、これら三つの視点から日本での滞在を振り返ります。

バラ.. 家族や仲間と一緒に過ごした楽しい時間、綿密に寝られた旅程のお陰でたくさん経験ができた、行、たことのない場所で新しい体験ができたこと、津波の被災地に訪れたこと、京都の西本願寺でお参りができたこと。

とげ.. もっと滞在の時間が欲しかった、重い荷物を抱えての移動が大変、湿気と雨で蒸し暑かった、帰国後の時差ぼけ。



芽.. 折々の訪れた場所についてたくさん学べたこと、訪れた場所について友達と共有したい、次の日本訪問が楽しみ、小さな町が大好きになったこと、高温多湿でも水分補給が大切と学んだこと。



【この話ご存知でしたか】

増山 栄子 翻訳 伊藤 千鶴子

ロスアンゼルス本派本願寺仏教寺院の始まり…

1917年9月30日に承認されたリトル東京地域の現行の3つの浄土真宗教会の併合により、ロスアンゼルス本派本願寺仏教寺院が立ち上がりました。3つの寺院は次のとおりです。羅府仏教会(ロスアンゼルス仏教会は1904年に東四番街239番地に「いずみだ開教使によって組織されました。南加仏教会(南カリフォルニア仏教会)は、1905年に内田眺融開教使(後にアメリカ仏教団BCAとなる北米仏教布教団の理事)によってジャクソン ストリートに設立された。中央仏教会(中央仏教会) 四番街 500番地に1917年にかわかみ開教使によって組織されました。

設立式典は12月8日と9日の週末に開催され、ジャクソン ストリートの新しく改装されたヤマトホールに階で稚児行列と礼拝が行われた。本堂の入仏供養には約1,500人が詰めかけ、総額5,000ドルの寄付があったと言われています。両夜ともお斎が提供され余興が上演されました。2018年1月20日、総会が開催され、新役員の選出と常設規程と規制が策定されました。財務報告書では、寺院の歴史の中でも数少ない黒字を記録しました。

1918年に国中がインフルエンザの流行に見舞われ、国民は1918年の秋から冬にかけて会衆は許可されなかったため、1周年記念式典は1919年2月15日から16日に延期して行われました。

1920年 8月15日、第一回結婚式挙行は、おだ さぶろうえもん と たけうち きくよ夫婦に対して、京極逸蔵開教使の司婚のもとヤマトホール本堂にて執り行われました。(左写真:ロバート・オダ<ジョイス・ワシザキ提供)



新着書籍紹介 (図書室内、閲覧・貸出可能)

西別院図書室では新たに二冊の洋書が貸し出し可能です。ぜひお手に取り読まれてください。

『七里和上はこの様に教えた』
稲垣 久雄訳、2015年

『ロスアンゼルの宗教』
リチャード フローリー編集
ダイアン・ウィンストン編集

「法味樂」味わう×樂しむ＝仏教 阿弥陀様は喜んでいる

昔、ある勉強会の場で先輩に言いました。「仏さまは智慧を具えて解脱されていらつしやるから、悩み事などないのではないですか」と。すると、先輩は「それは違う」ときっぱり答えました。曰く、「阿弥陀様はまだ悩んでいるよ。我々凡夫が救われてないから、いつも憂いていらつしやる」と。これを聞いたとき、私はハッとしました。以来、涼しげな仏さまのお顔を拝見するたび、その裏には衆生に向けた悲痛な想いがあると思ひ出します。

火宅の譬えというお話があります。昔々、ある村の長者の家が火事になりました。長者の子どもたちは、火事と知らずに燃え盛る火の家の中でまだ遊んでいます。長者がどんなに叫んでも子どもたちは遊び事に夢中で聞こえません。しびれを切らした長者は一工夫して、外に車のおもちやを用意して、「外に出て遊び」と伝えました。すると、家の外のおもちやにつられて子どもたちは、家から出てきたというお話です。

火宅とは、煩惱はびこる我々の世界のことを指します。燃える家で遊ぶ子どもたちとは、私たちのことです。私たちは目の前のことに忙しすぎて、周りが火に燃えていることに気が付きません。このままでは、煩惱の炎によってやがては私たちの身も燃えつくされてしまうことでしょう。これを心配して、仏様は我々を救い出すため、あらゆる手立てを用いられています。

歎異抄では、火宅の話が引き合いにし、この火宅無常の世界は真実でないことで溢れかえっており、火宅の外

から真実のお念仏が差し込んでくれていると記されています。東本願寺の学僧、安田理深師はこう言い残しています。「仏になるのは仏の世界において仏になるのであって、人間の世界において仏になるのではない。たすかった世界において助かるので、助からぬ世界において助かるうとするのは無理である。だから浄土というものを見出せば、そこから人間の世界に悠々とかえることができる。それが還相である。」

地上でジャンプをしても重力に捕まってしまう宇宙に行けないのと同じように、誰かの助けなしには火宅の家を脱出できません。地上を火宅、宇宙を涅槃と例えるなら、私たちを宇宙に連れていく力は、仏様の智慧と慈悲のはたらきなのです。執筆村上馨 開教使

8月27日、西ABAの友人と家族ら78人名が集い、ロングビーチ湾クルーズを楽しみました。『ファイートのモーターヨット「ザ・スピリット」の船上では、ファイエスタ・ピュッフェのメキシコ料理が振舞われ、またABANNICKのバンドは船上コンサートを披露し、クルーズを楽しみました。イベントを企画立案して下さいました。ド・ハヤシバラさんに感謝申し上げます。



Long Beach cruise
August 27, 2023

